

国際海上物流・港湾を考えるにあたっての今後の論点（たたき台）

1. 国際物流

（1）わが国を取り巻く経済情勢

- ① F T A や T P P 等の経済連携の進展、これに伴う世界の経済産業構造の変化は、わが国の貿易、国際海上物流にどのような影響を及ぼすのか <第1回港湾懇談会>
- ② わが国における人口減少、少子高齢化の進行など社会構造の変化は、わが国の貿易、海上物流にどのような影響を及ぼすのか <過去の港湾分科会>
- ③ 産業空洞化への対応、産業立地のための港湾整備という定性的説明や事例だけでなく、客観的または定量的に港湾の寄与度を評価できないのか <有識者> 等

（2）国際競争力

- ① 国際コンテナ・バルク戦略港湾及び日本海側拠点港がネットワークとして機能し、その役割を十分に果たせるよう、わが国全体としての港湾戦略のグランドデザインを策定すべき <経済団体>
- ② 物流コストの低減のためには、港湾だけでもものを考えるのではなく、物流を担う各分野を横断した議論が必要 <第1回港湾懇談会>
- ③ 出入港手続きについて、行政機関ごとに異なる制度運用を抜本的に改善するとともに、府省ポータルを活用した出入港手続きのワンストップ化を徹底すべき <経済団体>
- ④ 「選択と集中」で選択された港湾に貨物を集中させるためには、まず第一に安価で迅速な国内輸送ネットワークを構築することが必要ではないか <過去の港湾分科会> 等

（3）アジア等の港湾との連携、アジア域内物流

- ① わが国を含むアジア各国間の産業連携、分業体制の変化等は今後どのように進展し、わが国の貿易、国際海上物流にどのような影響を及ぼすのか <過去の港湾分科会>
- ② 欧米基幹航路だけに目を向けるのではなく、増大するアジア域内物流の中でわが国の港湾はどうシフトしていくべきか。また、場合によっては釜山港を活用することも考えられるのではないかと <有識者>
- ③ アジアとの海上物流において、高まる迅速性、定時性を要する輸送ニーズに対応する複合一貫輸送を活用していくには、鉄道など各分野を横断した施策が必要ではないか <過去の港湾分科会>
- ④ 東アジアにおけるクルーズ需要、わが国港湾へのクルーズ船寄港の進展に対応するにあたって、何に重点的に取り組むべきなのか <過去の港湾分科会>

- ⑤ 官民が連携した港湾プロジェクトの海外展開にあたっては、港湾インフラのみでなく関連産業、ソフト面も含めて進めることで、結果的にわが国の産業の発展につながるのではないかと <有識者>
- ⑥ 北極海航路・シベリア鉄道等の新たな物流ルートにより、わが国及び北東アジアの物流ネットワークはどう変化するのか <有識者・民間団体> 等

2. 安全・安心

（1）資源・エネルギー

- ① 世界の貿易・物流の構造的な変化や現在検討されているわが国のエネルギー・環境政策の見直しを踏まえ、戦略的な資源・エネルギーの輸入にどのように対応していくべきかと <第1回港湾懇談会>
- ② ロシア極東等における新たなエネルギー開発の動きはわが国の貿易、国際海上物流にどのような影響を及ぼすのか <有識者>
- ③ 新たな海底資源（メタンハイドレート、熱水鉱床等）の開発・活用のニーズに対し、港湾においてどう対応していくべきかと <有識者> 等

（2）離島

- ① 国境離島をはじめとした港湾における安全・安心対策について、海上保安、防衛の観点から何が不足しており、何を改善していくべきなのか <第1回港湾懇談会>
- ② 離島等における物価高などの経済格差、少子高齢化等の進行を踏まえ、ナショナルミニマムについてどう考えるべきかと <過去の港湾分科会>
- ③ 海洋空間の管理は非常に重要なテーマであり、関連する技術開発について、港湾分野ではどのような技術開発を進めるべきかと <有識者> 等

（3）国際航路

- ① 瀬戸内海などわが国の国際航路において、海上物流の効率性、安全性の観点から不足している点、改善していくべき点は何かと <有識者>
- ② パナマ運河拡張も踏まえた船舶の大型化が進展する中、わが国の国際航路における通航船舶の大きさ、通航隻数の動向はどのように変化していくのか <有識者> 等

（4）地震・津波対策【防災部会で審議中】

- ① 切迫性が指摘されている首都直下地震や東海・東南海・南海地震に対して、被災後においても海上輸送ネットワークを有効に機能させるため、港湾における施設の耐震性・耐津波性をどのように確保していくのか <過去の防災部会>
- ② 被災後の港湾の応急復旧を迅速に実施するための支援体制とともに、広域的な港湾相互のバックアップ体制をどのように構築していくべきかと <過去の防

災部会>

- ③ 東日本大震災を契機として、港湾の施設の設計の考え方を大幅に変え、設計対象を越える規模の津波に対する「粘り強い構造」の検討を進め、マニュアル等についても改訂する必要があるのではないか <過去の防災部会> 等

3. 港湾利用・管理

(1) 港湾整備、管理、運営

- ① インフラ整備だけでなく、関係者間での施設の共同利用、埠頭の利用再編、輸送形態の工夫、港湾空間の効率的な利用を阻害する放置艇等への対策等により、港湾の利用効率をさらに向上させることができるのではないか、今後どのように進めていくのか <過去の港湾分科会、有識者>
- ② 民営化の空間的範囲や運営範囲について、現在やろうとしていることが最終形なのか、その先があるのか。その時間スケールや戦略感をどう考えるべきか <過去の分科会>
- ③ 効率化や多様なサービスの展開、港湾運営会社の世界への進出等を見据え、今後、港湾運営の民営化をどのように進めていくべきか <第1回港湾懇談会>
- ④ 韓国等の周辺国に対抗するため、港湾の整備、管理、運営における国と地方、公と民の役割分担について、将来的なありかたを検討する必要があるのではないか <第1回港湾懇談会、過去の港湾分科会>
- ⑤ 公共施設と専用施設の整合性をどう考えるべきか <過去の港湾分科会>
- ⑥ 広域的な港湾連携や複数港湾の統合的なマネジメントのあり方を検討すべきではないか <過去の港湾分科会・経済団体> 等

(2) 港湾サービス

- ① 港湾サービスはコスト、リードタイムだけではなく、利用者の視点から見て港湾におけるサービスで何が不足しているか、何を改善すべきかなど、顧客満足度的な評価をする必要があるのではないか <過去の港湾分科会、有識者>
- ② 企業の経営において、港湾サービスはどれほど重要視されており、企業の立地、物流戦略等の意志決定にどれだけの影響を及ぼしているのか <有識者>
- ③ 岸壁に直結する道路の渋滞により埠頭の能力が限界に達しているところもある。取扱貨物量の増加や船型の大型化に対応するためには岸壁の整備だけではなく、道路渋滞を解消すべき <有識者、民間企業>
- ④ 港湾利用コストや国内輸送コスト、輸送にかかる所要時間のさらなる低減に向けて、特に着目すべき点は何か <第1回港湾懇談会>
- ⑤ 内航海運、鉄道、道路等、さまざまなモードを組み合わせた迅速かつ安価な国

内輸送ネットワークの構築に向けて、ハード、ソフトの両面から、特に重点を置いて取り組むべき点は何か <過去の港湾分科会>

- ⑥ AEO制度の更なる拡充、輸出入手続の電子化、ペーパーレス化の実現、出港24時間前ルールへの対応などについて議論を深化させるべき <経済団体> 等

4. 環境

- ① 港湾において、地球温暖化対策や循環型社会形成を進めるにあたり、今後新たに着目すべき要素は何か <有識者>
- ② 再生エネルギーの活用が求められている中、波力、潮流、風力等、海洋における新エネルギー開発のニーズに対し、港湾に求められる役割は何か <有識者>
- ③ 東京湾、大阪湾等の閉鎖性海域をはじめとする海域環境の改善を図るため、今後どのような取組を進めるべきか <有識者> 等

5. 施策の進め方

- ① 港湾政策について、今までどこまで議論していて、どこの議論が足りないのかを明らかにする必要がある <有識者>
- ② 港湾分科会は空間的・時間的に大局的な議論を行う場とし、オーソライズのための個別の議論は部会で行うようにするなど、港湾分科会のあり方を検討すべき <第1回港湾懇談会>
- ③ 港湾政策を進めていくにあたり、産業政策や他の社会資本整備政策との連携をさらに深めていくべきではないか <第1回港湾懇談会、過去の港湾分科会>
- ④ どういう順番でいつまでに何を解決していくのかについて、具体的な戦略を示していく必要があるのではないか <過去の港湾分科会>
- ⑤ 現状追認形の施策形成にならないよう、将来のあるべき姿を明確にした上で施策を進めていくべきではないか <過去の港湾分科会>
- ⑥ 現行の港湾法は整備中心という印象が否めないが、新たな政策的な要素を法律上どのように位置づけていくのか <第1回港湾懇談会>
- ⑦ 港湾整備は物流コストの低減のためだけではない。事業評価において港湾の地域開発効果をどのように客観的・定量的に予測・評価・説明するのか <有識者>
- ⑧ 国際海上物流・港湾を考えるにあたっては、港湾管理者の意見も聴取すべき <港湾管理者> 等